

CASBEE神戸 ver.3
深江竹友寮建替計画(F計画)

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸 ver.3

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸 ver.3/CASBEE-BD

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									4.0
Q1 室内環境					0.40		-		3.8
1 音環境				3.5	0.15	3.6	1.00		3.5
1.1 室内騒音レベル		騒音レベル: 40dB A		4.0	0.50	4.0	0.50		
1.2 遮音				3.0	0.50	3.2	0.50		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能					-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		LL=45			-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	0.20		
1.3 吸音					-		-		
2 温熱環境				3.6	0.35	3.6	1.00		3.6
2.1 室温制御				4.2	0.50	4.2	0.50		
1 室温		冬期夏期24℃の室温を実現可能な設備要領を確保		5.0	0.63	5.0	0.63		
2 外皮性能				3.0	0.38	3.0	0.38		
3 ゾーン別制御性					-		-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				3.5	0.25	4.8	1.00		3.9
3.1 昼光利用				3.2	0.30	4.4	0.30		
1 昼光率		住居部昼光率=4.0		2.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口					-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備		ハイサイドライトの採用		5.0	0.40	5.0	0.20		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	5.0	0.30		
1 昼光制御		住居部: ブラインド+庇で昼光を制御		3.0	1.00	5.0	1.00		
3.3 照度		照度100lx以上、複数機器の使い分けが可能		3.0	0.15	5.0	0.15		
3.4 照明制御		自動照明制御		5.0	0.25	5.0	0.25		
4 空気質環境				4.2	0.25	4.3	1.00		4.2
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		内装材は全てF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				4.5	0.40	5.0	0.38		
1 換気量		換気量: 30m ³ /h		4.0	0.50	5.0	0.33		
2 自然換気性能		開閉可能な窓面積を居室面積の1/6以上確保			-	5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ口は汚染源のない方位且つ各種排気口と3m以上離し		5.0	0.50	5.0	0.33		
4.3 運用管理					-		-		
1 CO ₂ の監視					-		-		
2 喫煙の制御					-		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		4.0
1 機能性				4.3	0.40	3.8	1.00		4.1
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	3.0	0.60		
1 広さ・収納性					-		-		
2 高度情報通信設備対応					-	3.0	1.00		
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準を満たしている		4.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	5.0	0.40		
1 広さ感・景観		住居部天井高=3.51m			-	5.0	0.50		
2 リフレッシュスペース					-		-		
3 内装計画		内観パースによる建物コンセプトの事前検証		5.0	1.00	5.0	0.50		
1.3 維持管理				4.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計において取組みが標準以上		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		維持管理用機能の確保において取組みが標準以上		4.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.9	0.30		-		3.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.4	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能		免震装置の採用		5.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				4.5	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数		劣化対策等級3相当		5.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		押し成形セメント板		5.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床: タイルカーペット、壁: EP塗、天井: 化粧打放しコンクリート		4.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		高湿部にガルバリウムダクト・ステンレスダクトを使用		5.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の2種以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				4.4	0.20		-		
1 空調・換気設備		空調・換気設備の系統を区分。熱源種の二重化		5.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		節水型器具の採用、受水槽を2基設置		5.0	0.20		-		
3 電気設備		非常用発電設備の設置、精密機器を地下に設置しない		4.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		光ケーブルの使用、精密機器を地下に設置しない		5.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			4.2	0.30	3.8	1.00	4.0
3.1 空間のゆとり					4.6	0.50	
1	階高のゆとり	住居部階高=3.8m			5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.26			4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			4.2	1.00			
1	空調配管の更新性	DSIに扉を設置	5.0	0.20			
2	給排水管の更新性	PSIに扉を設置	5.0	0.20			
3	電気配線の更新性	EPSに扉を設置	5.0	0.10			
4	通信配線の更新性	EPSに扉を設置	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)				0.30			4.4
1 生物環境の保全と創出			5.0	0.30			5.0
外構緑化指数50%以上確保							
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40			4.0
周辺のまちなみや景観に対して標準以上の配慮を行った							
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30			4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			5.0	0.50			
地域性・アメニティへの配慮に関して充実した取組みを行った							
3.2 敷地内温熱環境の向上			4.0	0.50			
屋上緑化の実施							
LR 建築物の環境負荷低減性							4.0
LR1 エネルギー				0.40			4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20			3.0
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10			2.0
3 設備システムの高効率化			5.0	0.50			5.0
[BEI][BEIm] = 0.49							
4 効率的運用			5.0	0.20			5.0
集合住宅以外の評価							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
集合住宅の評価			5.0	1.00			
4.1	モニタリング	I.SEM(BEMS)の採用	5.0	0.50			
4.2	運用管理体制	消費エネルギーの見える化、省エネサポートシステムの導入	5.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				0.30			3.9
1 水資源保護			3.4	0.20			3.4
1.1 節水			4.0	0.40			
自動水栓、自閉水栓、節水型トイレの採用							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00			
2	雑排水等利用システム導入の有無						
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.60			4.3
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20			
高炉材(柱)							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20			
ビニル床シート(床)、吸音板(天井)、再生木材(ウッドデッキ)							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			4.0	0.10			
針葉樹材の使用							
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20			
GL工法、二重床							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			4.0	0.30			
対象物質を含有しない建材を使用(塗り床)							
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70			
1	消火剤						
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50			
3	冷媒		3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				0.30			3.8
1 地球温暖化への配慮			4.4	0.33			4.4
LCCO2排出率=66%							
2 地域環境への配慮			3.8	0.33			3.8
2.1 大気汚染防止			4.0	0.25			
排出濃度が基準値の90%以下に抑えられている							
2.2 温熱環境悪化の改善			4.0	0.50			
隣棟間隔指標=0.75							
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25			
1	雨水排水負荷低減	雨水流出抑制対策を実施	4.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	適切な駐輪・駐車スペース、荷捌きスペースの設置	4.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	1.00			
2	振動						
3	悪臭						
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制						
3	日照障害の抑制		3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの項目の過半を満たし、広告物照明を設置しない	5.0	0.70			
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			